

プール清掃 5,6年生ありがとう

6月の声を聞くと気温もぐんぐん上がり、夏が近い事を思わせるこの頃です。子どもたちの楽しみにしている水泳学習ももう直ぐです。6月1日(月)には5,6年生がプール清掃をしました。夏休みにプール当番のお手伝いをして下さったことのある保護者の方々のご承知でしょうが、本校のプールは東に荒川を望む景観の大変素晴らしい場所にあります。ですが、周辺の樹木が大きくなり、冬の間には沢山の落ち葉をプールに運んでいます。そのため、落ち葉や木々の枝なども入り相当汚れていました。

5,6年生が一生懸命プール本体の壁を磨き、プール底をデッキブラシでこすり、見違えるようにきれいになりました。



校外学習(春の遠足)どこへ行くのかな、行ったのかな

5,6月には多くの学年で校外学習があります。既に実施したもの、これから実施するもの、色々です。昔は、家に自家用車など無い時代でしたので、県内の観光地でもなかなか行く機会がなく、学校で連れて行ってもらう春の遠足、秋の遠足がとても楽しみでした。私なども河口湖を初めて見たのは、小学校の遠足での富士五湖巡りが初めてでした。(山中湖は遠いので実際には富士四湖巡りでしたが)

今は春の遠足も「校外学習」(春の遠足と言う場合もありますが)といい学校の外へ出た学習と位置づけられています。ですから、行き先も学習に関係する場所になっています。そうはいつても子ども達にとっては学校生活の大きな楽しみの1つです。

1学期の校外学習の日時と行き先を紹介します。

学年	実施日時	場所や内容
1,2年	5月11日(月)	敷島総合公園 梅もぎ体験
1年	6月5日(金)	給食センター
3年	5月22日(金)	黒富士農場・小林牧場
4年	5月28日(木)	県警察本部・県立科学館
4年	6月2日(火)	甲府地区消防本部
4年	6月18日(木)	平瀬浄水場
5年	6月10,11日	八ヶ岳少年自然の家 林間学校
6年	5月13~15日	東京・神奈川・千葉 修学旅行

※上記以外に、地区探検、生活科探検などで学校の外(学校周辺)へ出て学習する機会も多くあります。(1年~3年生) 4年生の校外学習が多いのは、社会科の学習内容が自分たちの住む地域のことになっているからです。また、本校は、校外学習などの時、スクールバスを優先的に利用できます。(他の甲斐市の学校の利用も多く、なかなか希望の日に使えないのですが)その点、本当に大変ありがたいことです。

親子の会話 ありますか

これは以前聞いた話ですが、私がその話をどのような機会(講演会や研修会)に聞いたのか、いつのことだったか(7, 8年前だと思いますが)はつきりとは記録していません。ただ、この話は有名な話なので保護者の皆さんの中にも既に御存知の方がおいでになるかもしれません。話の内容は、アメリカのニューヨークで小学校に通う子ども達の能力(この調査では知能テストの数値)は家庭のどのような要因と一番関係が深いかを調べたことがありました。(わが国ではちょっと考えられないような調査ですが)知能テストの数値の高低は、家庭のどんな要因に影響を受けていたのでしょうか。次の①～③の中から考えてみて下さい。

①親が子どもの生活に深く干渉する家庭。過干渉とか過保護な家庭。

②親が子どもの行動を構わない放任の家庭。

③親子の会話のある家庭。

実際の調査ではこれ以外の要因も調べたと思いますが、結果は③の「親子の会話」の影響を大きく受けていました。低い数値を示した子は、親子の会話が少なく、また、会話は単語で行われていました。例えば、飯(めし) 金(かね) 寝る、です。

それに対し、高い数値を示した家庭の子は、親子の会話が豊かで、また、会話は文章(主語と述語のある)でされていました。例えば、

○単なる「飯(めし)」でなく、「お腹がすいたので早くご飯にしてください。」とか、「私は大変お腹がすいています。早くご飯にしてください。」というように。(日本語は主語の省略が多いのアメリカの例がそのままあてはまらないこともあります)

人の脳の動きは、意志を伝えるとき、1つの主語に対し、それにあう述語や目的語を選んでいきます。会話をするたびに、そのような操作を頭の中で自然に行っている子と、単語だけで用を足す子では、脳の使い方が違ってきます。脳は上手に使えば使うほど働きが良くなる、と言われていています。

実は、これに似た次のような話もあります。将棋で有名な米長邦雄(くにお)さん(永世棋聖 昭和18年生まれ)をご存知でしょう。山梨県の増穂町の出身です。将棋界に入った邦雄さん以外の他の兄弟(確か4人兄弟の一番下が邦雄さんだったようです)は皆、東大に進学しています。米長邦雄さんは、「兄達は皆、頭が悪いから東大に行った。」と豪語しています。実は、この4人の子どもを育てたお母さんの話を聞いた人から、次のようなエピソードを伺う機会がありました。ある人が、こんな質問をしたそうです。

「優秀なお子さんを育てられました。何か特別なことをしたのですか。」

すると、4人の優秀な子どもを育てた、というような所は微塵も感じられない、どこにでもいるような普通のお母さんは、次のように言いました。

「私は、特別な子育てはしていません。ただ、お子守り姐や(むかしは子守を近所の女の子にお願いすることがあった)をお願いするとき、よく話をする子をお願いしました。背負いながら、いつも子どもに話しかける、そんな子に子守をお願いしました。」と言ったそうです。会話により、脳が活性化することをお母さんは知っていたのかもしれませんが。

この話は、私たちに次のような示唆も与えてくれます。親が子と会話する時間が十分取れない時は、誰か別の人の子どもと話をしても同じような効果がある。この2つの話は、会話の大切さを私たちに教えてくれます。忙しい毎日ですが、どこかで時間をつくり、親子の会話のあり方を考えてみたいものです。